

前月はタオルなど水遊び準備のご協力ありがとうございました。気温を見ながら引き続き行っていく予定ですが、今月から長久保公園や屋上園庭での外遊び活動も行っていきます♪ 体調管理に気をつけながら、子ども達が様々な自然を感じ、外遊びの楽しさに興味を持てるようにしていきます！

【9月28日(土)に保護者会(クラス懇談会)を行います。詳細は園便りをご確認ください。】

ベビーサインって、なあに？

『ベビーサイン』について、お迎え時や連絡ノートを通して耳にした方もいるかと思います。

ベビーサインとは、まだ上手く話せない赤ちゃんや簡単な手話やジェスチャーを使って「お話し」する育児法で

1990年代にアメリカで始まり、2000年以降からは日本でも実践されています。

私達もまだまだ勉強中ですが、効果や園で取り組んでいるサインについて紹介出来たらと思います♪

【どんな効果があるの？】

・自分の気持ちを言葉にできない年齢ではありますが、日々様々なことを感じて育ち「これが欲しい」「今はしたくない」など、自分の気持ちもしっかりと持っています。ベビーサインを通じて要求が伝わることで、子どもはパパ・ママが自分を理解してくれるという安心感が得られます。また、子どもの気持ちを理解できることで育児の負担の軽減にも繋がるかもしれません。ベビーサインは、お互いのストレスを軽減しながらコミュニケーションを深め、親子関係の絆を深める役割を果たしてくれます。

【どうやって教えたらいいの？】

・一番大切なのは、目を見て笑顔で語りかけながらサインと一緒にやって見せてあげることです。目と耳で言葉を教えることで、発達をより促す効果も期待できます。

サインを覚える時間を作ったり覚えたりする数を決めたりする必要はありません。普段の語りかけにベビーサインを添えて見せていくことで、自然とその意味を理解してコミュニケーションが取れるようになります。ただ、同じ意味の言葉でも、教える大人のサインのやり方が違うと、子どもはどれを覚えたら良いか分からず混乱してしまうため、サインを統一することも大切になってきます。また、子どもが見てすぐに真似をすることは難しいため「まずはベビーサインを知ってもらおう」くらいの軽い気持ちで始めてみましょう♪

【実際の子どもの姿は？】

・クラスでは、食事の前に必ず『食べる』のベビーサインを見せて知らせています。始めてすぐの頃は「何だろう？」とジーっと動きに注目したり、不思議そうな表情をしていた子ども達。日々繰り返し行ったことで、最近ではサインを見ると「ご飯だ」と理解し、大人に手を伸ばしたり自分で緑の待ち椅子までハイハイや歩行で移動して座ったり、使っていた玩具を片付けたりする姿が見られています。中には、大人に『食べる』のベビーサインを見せて、お腹が空いたことや食べたいことを知らせる子もいます。

・食事だけではなく、園での生活の中で様々な場面でベビーサインを見せて知らせています。クラスではどのようなサインをどのような場面で伝えているのか、右側のページで紹介します♪ 是非、ご家庭でもやってみてください！

『もっと』

指先を軽く内側に丸めてとんとんと触れ合わせます。

ポトリンコ（遊び）が上手に出来た時・わらべ歌や手遊びを歌い終わった時
言葉掛けの例：「もっとやる？」「もっと歌って欲しいの？」



『おしまい』

言葉をかけながら両手を合わせます。

遊びが終わった時・片づけを促す時・次の行動に移りたい時など

言葉掛けの例：「この玩具、おしまいにする？」「おしまいにしてから行こうね」



『食べる』

口の前に持っていき、物を食べるようなジェスチャーをします。

言葉掛けの例：「ご飯食べよう」「ご飯食べたいの？」



『美味しい』

ほっぺたをポンポンと軽く叩きます。

言葉掛けの例：「野菜美味しいね」「ご飯美味しい？」

